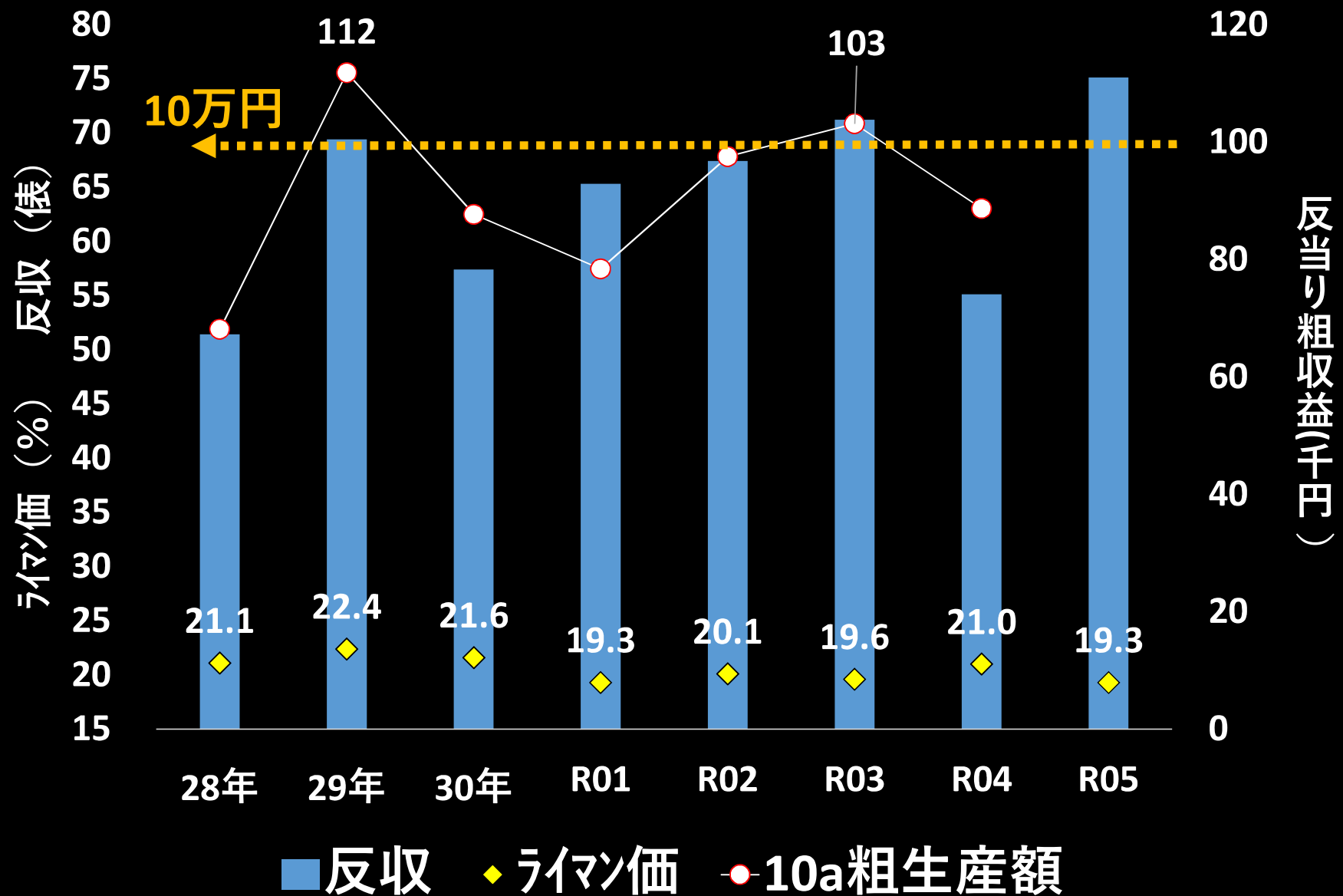


澱原品種「コナヒメ」 70俵/10a以上安定栽培事例

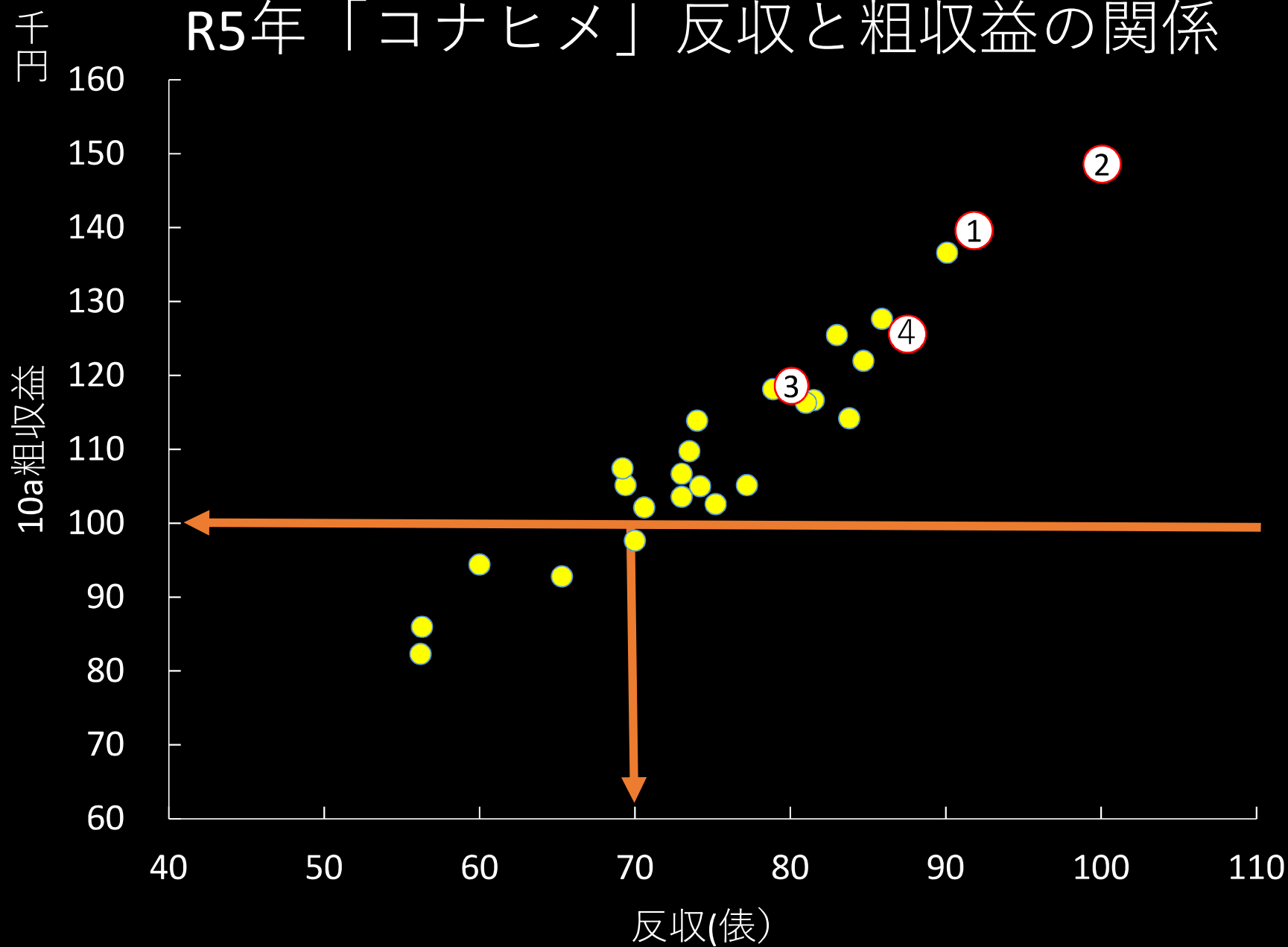


2023年9月6日撮影 85俵

「コナヒメ」の反収と収益



R5年「コナヒメ」反収と粗収益の関係



「コナヒメ」70俵以上 優良事例

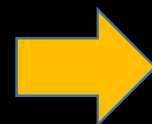
単位：俵

	R1	R2	R3	R4	R5
優良事例 1	87	83	84	70	92
優良事例 2	—	76	76	72	100
優良事例 3	76	76	82	65	80
優良事例 4	77	74	84	60	88
農協平均	65	67	71	55	75

優良事例1 「輪作のために澱原栽培を開始」

生食用を栽培してきたが、そうか病発生により馬鈴しょ栽培を2013年からやめていた！

小麦 てん菜 豆類での輪作を6年間行ったが、豆の収量が確保できなくなり澱原栽培をR1年より始めた。



輪作に余裕ができ、馬鈴しょ後作の小麦の生育も良く輪作の重要性を再認識！！

栽培のポイント

茎葉を最後まで健全に保つ

- ①適正 pH 6.0
- ②BBS859UF 100kg/10aを作条施肥
- ③地温が確保できる5月上旬に植付する
- ④雨予報がある場合は早めの防除

食用馬鈴しょと同じような緊張感をもって防除を行う

優良事例2 「金時より澱原は安定している！」

3年前(R2)より澱原栽培を開始！

食用・加工用馬鈴しょは労力が必要→澱原を選択

石の無い圃場は無人で収穫可能1ha以上可能

栽培のポイント

茎葉を最後まで健全に保つ

- ①適正pH 5.8以上
- ②BBS859UF 80~100kg/10aを作条施肥
- ③地温が確保できる5月上旬に植付する
- ④防除が最も重要
雨予報がある場合は早めの防除
7月下旬よりマンゼブ剤を400倍で4回

優良事例3 生食用・加工用・澱原用を栽培

澱粉専用種は栽培していなかった
褐色火山性土の乾燥地でそうか病が多発した

pHなどの対策を試みたことがあるが他の作物への影響が大きかった

pHコントロールでそうか病を抑制することをあきらめ、
そうか病が出る乾燥地には澱原を作付することにした

栽培のポイント

茎葉を最後まで健全に保つ

- ①適正pH 6.0以上 高くても気にしない
- ②施肥はブロキャスでBBS650UF 100kgと豚糞ペレット70kgを散布し、
カッティングプランタで作条に硫安20kg施肥する
- ③防除は食用と同じ体系で行う アブラムシ防除は生育後半まで手を抜かない

優良事例 4

粘土圃場が多く先代より澱原栽培継続！

澱原はそうか病の心配がなく土壤改良や堆肥の施用に気を使わない



馬鈴しょ以外の収量も高くなる！

栽培のポイント

茎葉を最後まで健全に保つ

①培土前にロング肥料をブロキャスで散布

フレッシュロング 825 20kg (N:3.6kg P:0.4kg K:1.0kg Mg : 0.2kg)

②6月の防除には尿素2kgを1600㎡に投入する

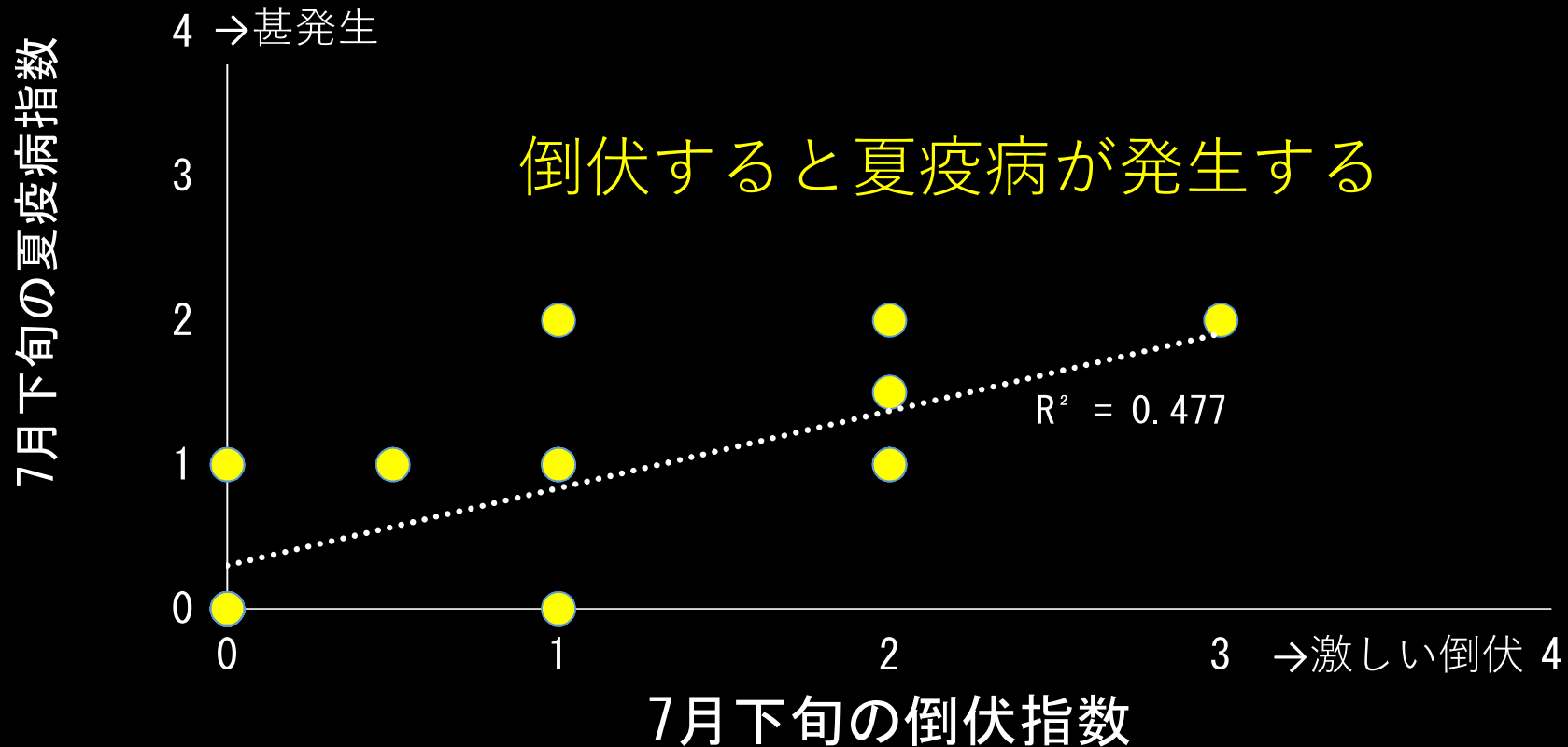
(尿素0.1%液) 開花が終わるまで

③小麦収穫後ぐらいからマンゼブ剤を使用し茎葉を保つ

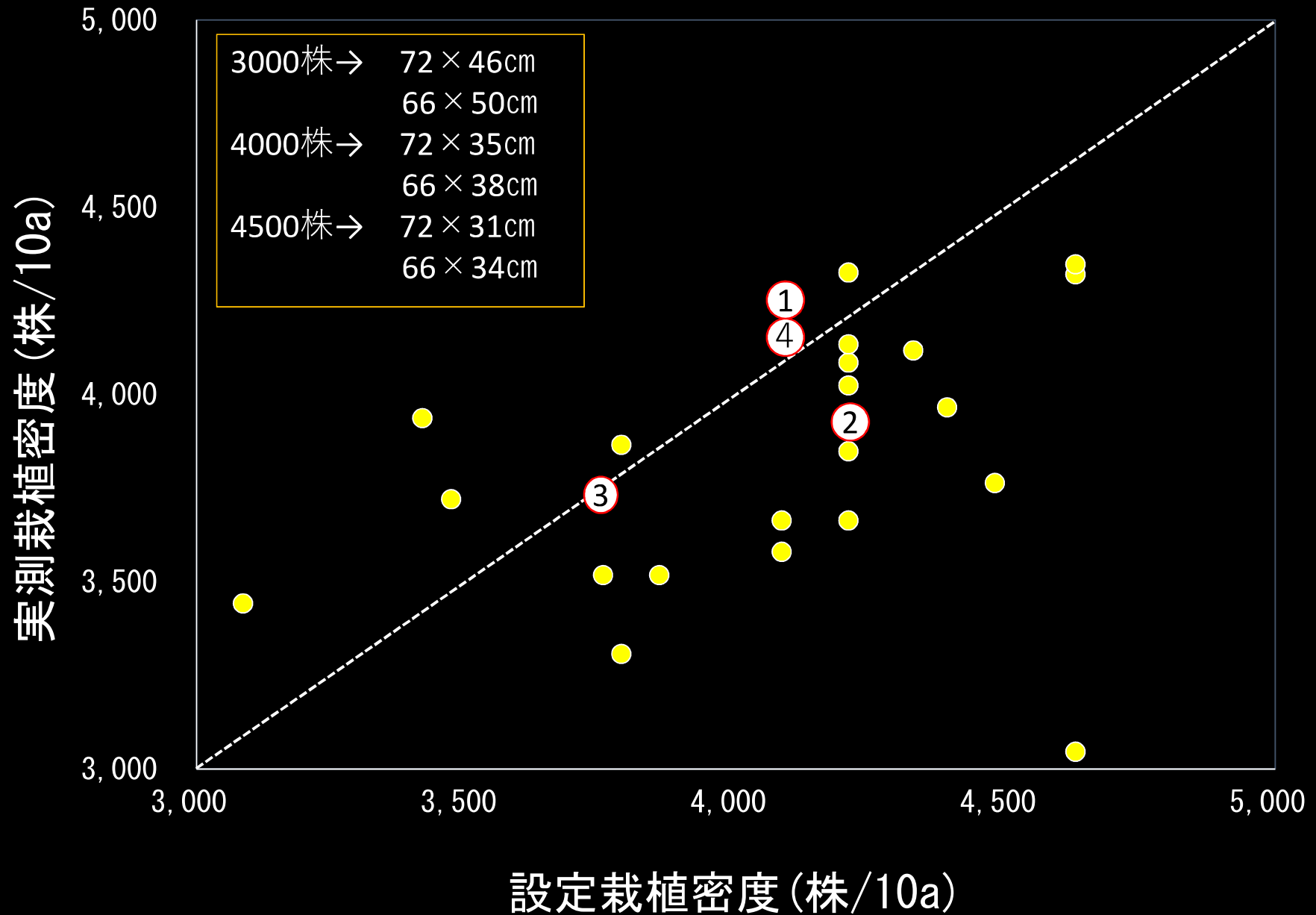
茎葉を最後まで健全に保つ

- ①倒伏させない ⇔ 圃場にあった栽植密度
- ②夏疫病を発生させない

7月下旬倒伏指数と夏疫病の発生程度(2023実態調査より)



測定栽植密度と実測栽植密度



夏疫病による被害



2023年 8月上旬

2023年 9月6日撮影 69.2俵

事例① 91.8俵 20.2%



事例② 100.1俵 19.7%



事例③ 80.1俵 19.6%



事例④ 87.6俵 18.9%



事例① 91.8俵 20.2%



事例② 100.1俵 19.7%



2023年 9月上旬

事例③ 80.1俵 19.6%



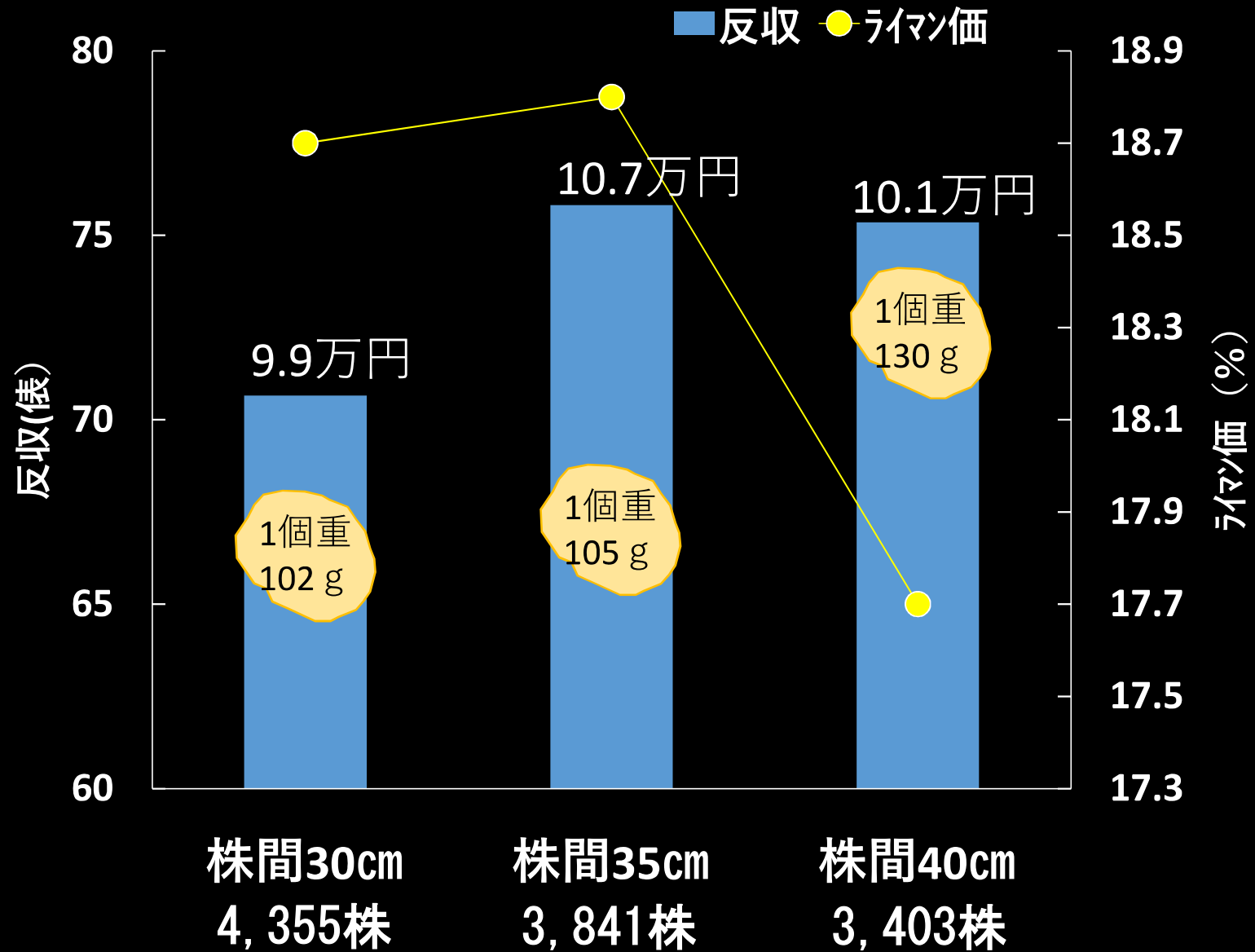
事例④ 87.6俵 18.9%



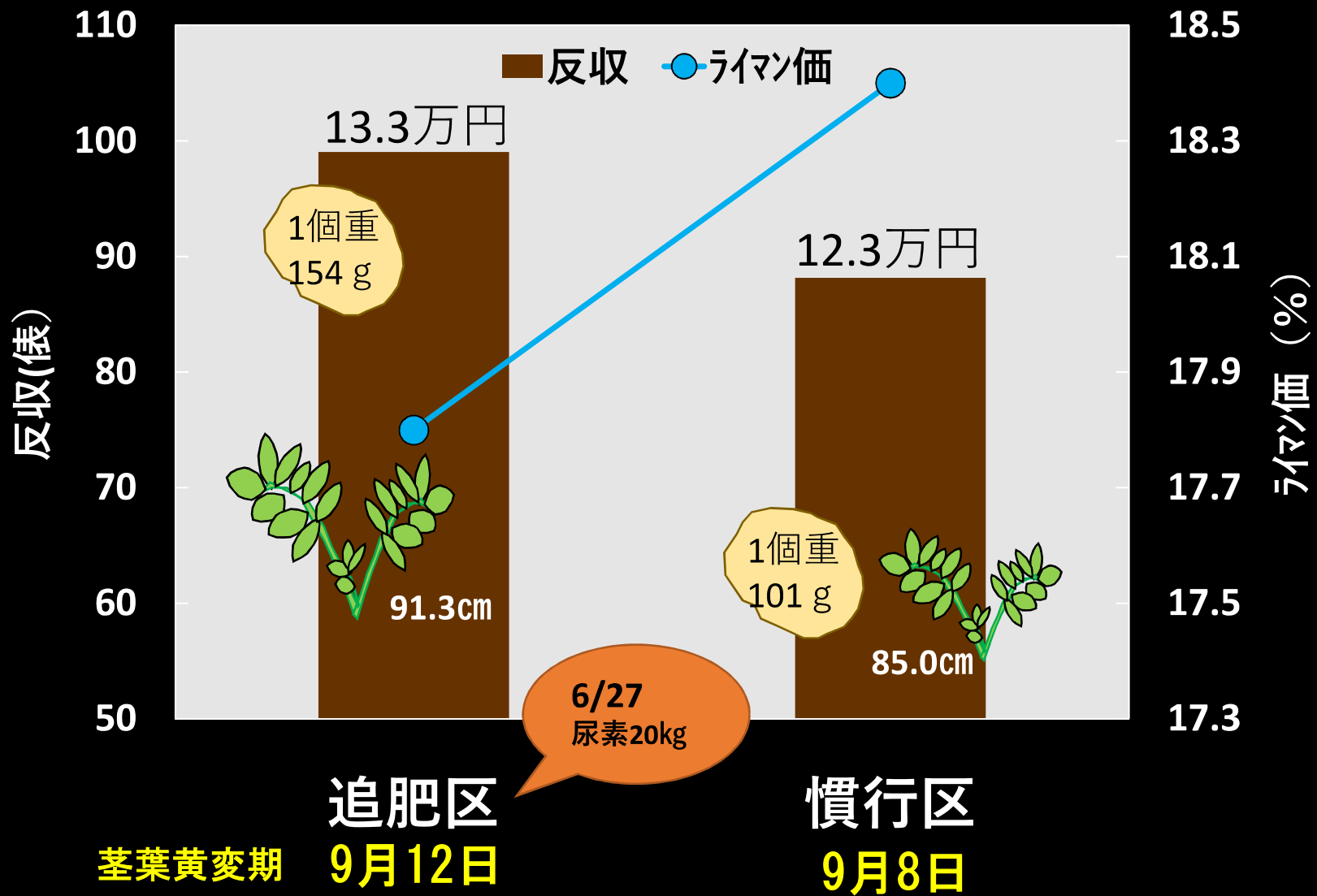
R5年 試験結果より

- コナヒメ 栽植密度は？
- 追肥効果はあるのか？
- マンゼブ剤の効果は？

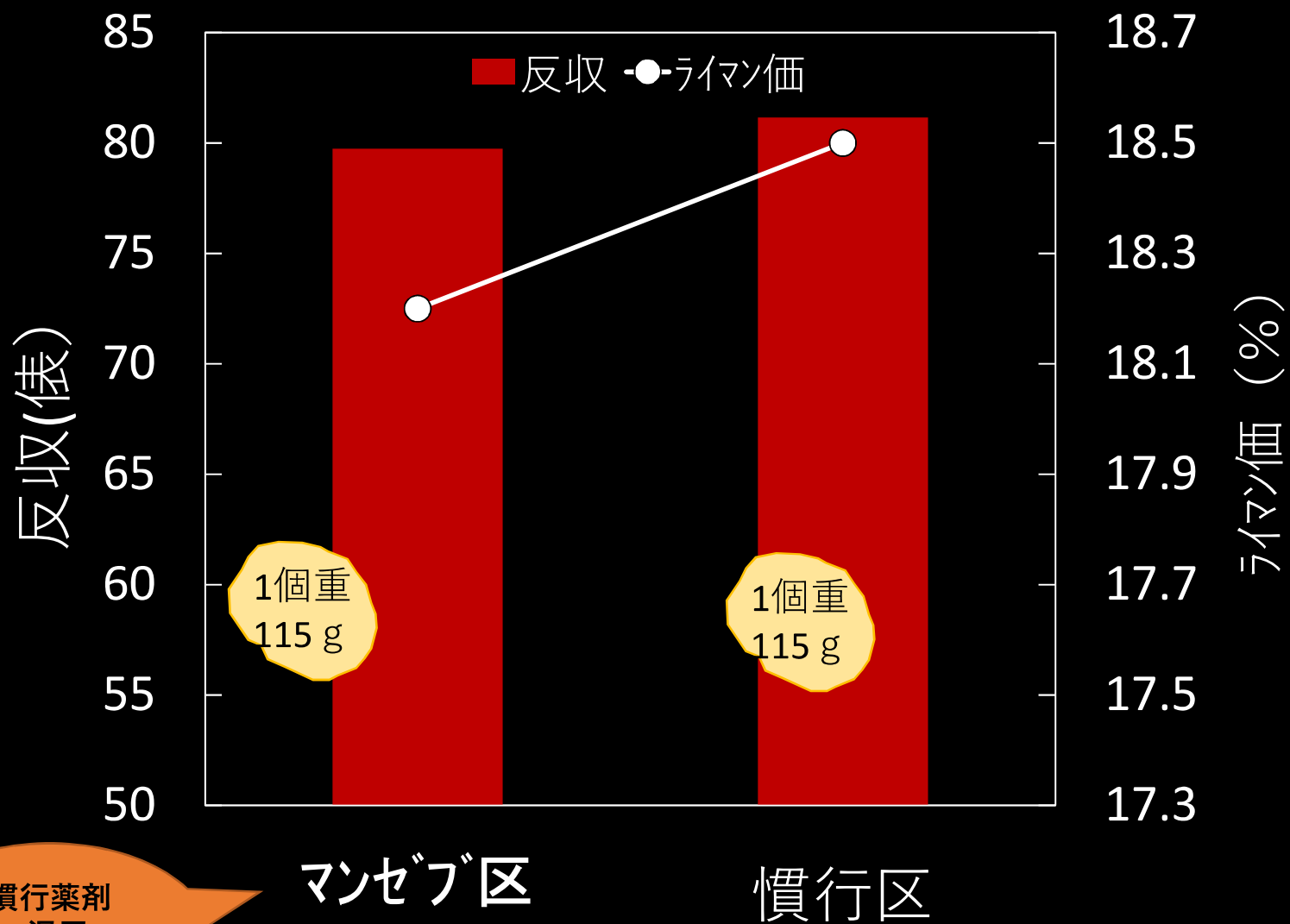
R5年コナヒメ株間試験結果



R5年コナヒメ追肥効果 あり！



R5年コナヒメ マンゼブ剤効果確認



慣行薬剤
+混用
マンゼブ剤
400倍 × 10回

マンゼブ区

慣行区

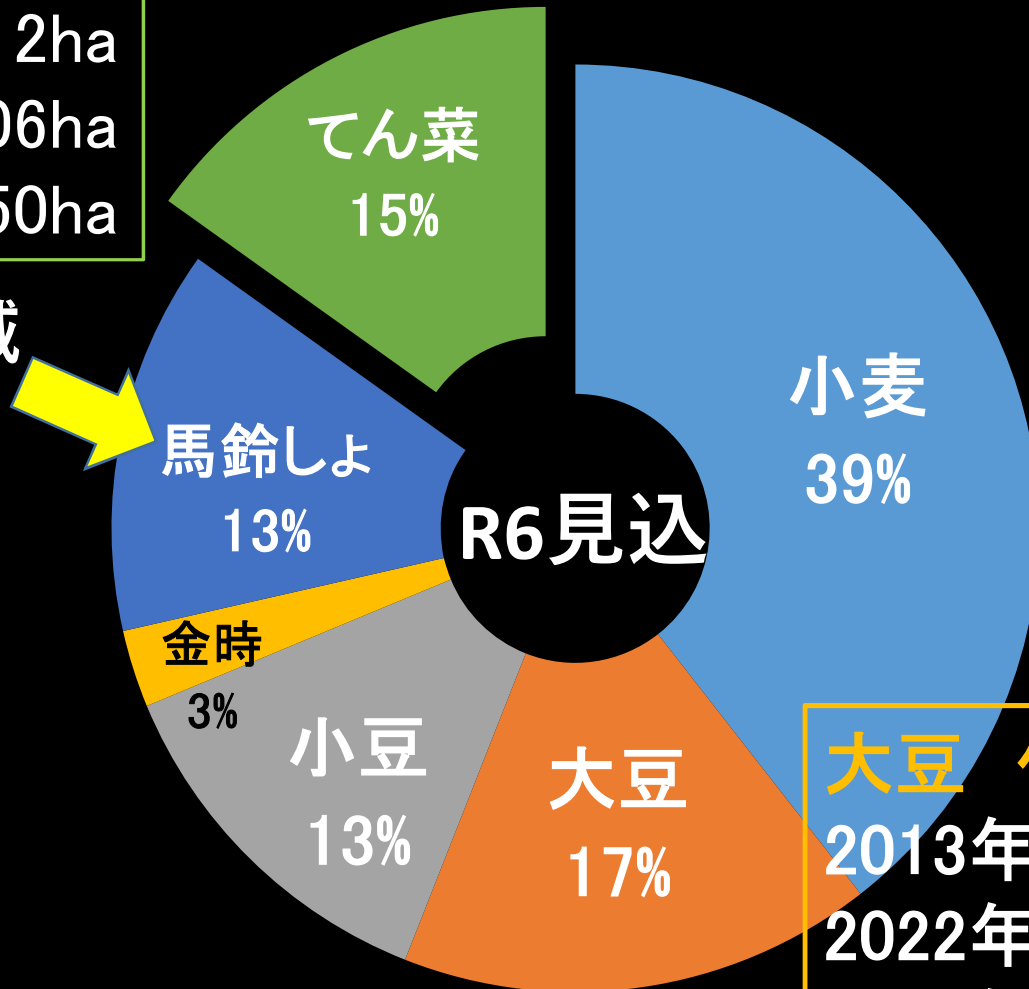
馬鈴しょの10a収益の比較（試算値）

	反収	A:粗収益	B:直接経費	労働時間	D:A-B 差引収益
男爵いも	45俵	154,040円	80,367円	10.3hr	73,673円
トヨシロ	55俵	136,278円	78,206円	10.1hr	58,072円
コナヒメ	70俵	92,820円	54,097円	4.3hr	38,723円
金時	3.3俵	75,834円	45,474円	5.1hr	30,360円

てん菜作付面積

2013年	2,815ha
2022年	2,612ha
2023年	2,406ha
2024年	2,250ha

156ha減



大豆 作付面積

2013年	1,144ha
2022年	2,833ha
2023年	2,189ha
2024年	2,460ha

優良事例1

食用馬鈴しょを栽培してきたが、**そうか病発生**により馬鈴しょ栽培を2013年からやめた
馬鈴しょ栽培をやめ、コムギ てん菜 豆類での輪作を6年間行ったが豆の収量が確保できなくなった
輪作体系のためにでん粉原料用品種の作付を2019年より開始した
馬鈴しょ栽培を再開し、輪作に**余裕**が出てきた
馬鈴しょ後作の小麦の生育も良く輪作の重要性を再認識した
澱粉原料用品種を栽培するにあたって**ハーベスタへの投資**が障壁であった
中古澱原ハーベスタ20万円で購入し、修理に70万円かけた
新品のハーベスタは450万円ぐらい 今思えば新品を購入してもよかったが、作付していない時は投資への不安があった
70俵以上確保できれば省力的で収益を確保できる作物である
なにより、適正な輪作体系は、各作物の生産量を維持できる
新規で澱粉を開始するにはハーベスタへの投資がポイントになる
収穫機リースがあれば始めやすいのではないかな？

ハーベスタについて

食用・加工用のハーベスタでもチョッパー茎葉処理を行えば収穫可能である。
専用ハーベスタ 茎の除去が良く 機上に1人乗せて50~60a収穫可能
機上選別は腐敗・石の除去

栽培のポイント

1. 土づくり 堆肥の施用3t/10a 4年に1回 小麦播種前に施用 同時にpH改善を行う
2. 防除 雨が降る予報のある時は早めの防除を行う。
3. 食用と同じよう緊張感をもって防除に努めていくことが大切
4. **R4年(2022年)は茎が早く仕上がったので収量が低かった 最後まで茎葉は健全に保ちたい**
5. 早く掘っても遅く掘ってもライマン価は変わらないので収量確保に努める
6. マンゼブ剤の防除が効果的
7. 黒土よりも赤土の方が収量が多い気がする
8. 浴光催芽はしていない。サンテにあけD型倉庫に放置
9. イモの目の状態やてん菜苗の状況で4月下旬になることもあるが、基本的に馬鈴しょは地温が確保できる5月上旬に植付する
10. 生食用栽培時は畦幅75cmだったが、澱原なので66cmとしている
11. 株間は33~35cmに設定し、種子量に応じて調整している 4300株程度やや粗植

	2019	2020	2021	2022	2023
年産	R1	R2	R3	R4	R5
反収 (俵/10a)	87.4俵	82.6俵	84.4俵	69.7俵	91.8俵
デンプン価	18.9%	20.2%	19.6%	21.4%	20.2%
後作小麦率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

優良事例1 R5年(2023年)栽培概要

1. 植付日 4月28日
 2. 施肥

施肥時期	銘柄	施肥量	N	P	K	Mg
4月28日	BB859UF	100 ^g _a	8	25	9	6

3. 栽植密度(計測値)

4,163 株/10a		
畦幅cm	×	株間cm
66	×	36.4

4. 7月下旬生育調査

草丈 63 cm
 葉色値SPAD 39.7
 夏疫病指数 0 0:発生なし 1:発病がある 2:株の1/2が発病 3:株の1/2以上発病 4:枯死
 倒伏指数 0 0:倒伏なし 1:倒伏がある 2:圃場の1/2が倒伏 3:株の1/2以上倒伏 4:全面倒伏
 圃場の特徴 とても綺麗

5. 防除

防除回数	防除日	資材名	倍率
1	5月16日	モーティブ乳剤	300 ml
2	6月12日	グリーンペンコゼブ水和剤	500 倍
3	6月21日	グリーンペンコゼブ水和剤	500 倍
4	6月28日	クプロシールド	1,000 倍
		ピレスコ顆粒水和剤	10,000 倍
5	7月5日	グリーンペンコゼブ水和剤	400 倍
6	7月11日	グリーンペンコゼブ水和剤	400 倍
7	7月20日	フロンサイドSC	1,500 倍
		カスミンボルドー	800 倍
		コルト顆粒水和剤	6,000 倍
8	7月21日	カビナイスPZ水和剤	600 倍
		スターナ水和剤	1,000 倍
9	8月4日	グリーンペンコゼブ水和剤	400 倍
		銅ストマイ水和剤	600 倍
		ウララDF	4,000 倍
10	8月12日	グリーンペンコゼブ水和剤	400 倍
11	8月22日	グリーンペンコゼブ水和剤	400 倍
12	8月28日	グリーンペンコゼブ水和剤	400 倍

夏疫病防除回数 10回



優良事例1 撮影日9月6日

優良事例2

30年前に食用加工用品種を栽培していた
3年前(R2)より澱粉専用品種の栽培を開始した
小麦の前作として金時を作っていたが収量が不安定であり澱粉専用品種の栽培を始めた
食用・加工用馬鈴しょは労力が必要であり澱粉専用品種を選択した
石の多い圃場では機上に3人乗ることがある この時の作業能率は50a/日程度
石の無い圃場は無人で収穫可能1ha以上可能
収穫は楽だが土場への搬入に時間を要する
小麦の播種も余裕でできる 早期収穫でも収量への影響はない
栽培開始より70俵以上を安定的に確保しており収益性が高い

ハーベスタなど初期投資について

初期投資が不安であったが、澱粉専用ハーベスタ50万円 修理40万円であった 計90万円
プラントは中古が多数出ており安価に導入できる。初期投資合計100万円以下で機械類の導入可能
新品機械の購入では澱粉専用種は栽培に踏み切ることができなかった
培土は、初年目はカルチで培土をした 2年目から地域内でロータリカルチが出たので購入した
でん原品種の培土は、カルチだけでもやれる
粘土の強い圃場はロータリカルチ必要かも

栽培のポイント

1. 土づくり pHは5.8以上
pH改良はてん菜の時にタンカルを100kg程度施用する
堆肥の施用3t/10a4年に1回 小麦播種前
2. 澱粉栽培で最も大切なのは防除 茎を最後まで丈夫に生かすこと
3. 防除 雨が降る予報のある時は早めの防除を行う
4. 令和4年は茎が最後まで元気で収穫時に邪魔であり リーフチョッパーで処理してから収穫した このため71.8俵と多収であった
5. 生育後半のマンゼブ剤の防除が効果的 400倍 濃い目に防除している 7月下旬より4回程度
6. 施肥はBBS859UFを80kg以上 100kg未満としている 追肥はしない
7. 植付作業は5月上旬 地温が確保できてから植付する
8. 畦幅66cm 株間は36cmに設定 やや粗植4,200株
9. 輪作体系 小豆→馬鈴しょ→小麦→てん菜
10. 馬鈴しょ植付までの管理 プラウ耕起(前年秋)→春 スタブル又はチゼル→パワーハロー2回
11. 圃場全面の石とりはせず多い地点のみ石を取っている

	2020	2021	2022	2023
年産	R2	R3	R4	R5
反収 (俵/10a)	75.5俵	76.3俵	71.8俵	100.1俵
デンプン価	19.8%	19.6%	21.6%	19.7%
後作小麦率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

優良事例2 R5年(2023年)栽培概要

1. 植付日 5月4日

2. 施肥

施肥時期	銘柄	施肥量	N	P	K	Mg
5月4日	BB859UF	75 ^{kg}	6	18.75	6.75	4.5

3. 栽植密度(計測値)

3,925 株/10a		
畦幅cm	×	株間cm
66	×	38.6

4. 7月下旬生育調査

草丈	71 cm	
葉色値SPAD	40.4	
夏疫病指数	0	0:発生なし 1:発病がある 2:株の1/2が発病 3:株の1/2以上発病 4:枯死
倒伏指数	0	0:倒伏なし 1:倒伏がある 2:圃場の1/2が倒伏 3:株の1/2以上倒伏 4:全面倒伏
圃場の特徴	とても綺麗	

5. 防除

防除回数	防除日	資材名	倍率
1	6月7日	グリーンペンコゼブ水和剤	500 倍
2	7月3日	ビレスコ顆粒水和剤	10,000 倍
		クプロシールド	1,000 倍
3	7月10日	グリーンペンコゼブ水和剤	500 倍
4	7月20日	コルト顆粒水和剤	6000 倍
		フロンサイドSC	1500 倍
		カスミンポルダー	800 倍
5	7月29日	カビナイスPZ水和剤	600 倍
		スターナ水和剤	1000 倍
6	8月4日	ウララDF	4000 倍
		グリーンペンコゼブ水和剤	400 倍
		銅ストマイ水和剤	600 倍
7	8月13日	グリーンペンコゼブ水和剤	400 倍
8	8月22日	グリーンペンコゼブ水和剤	400 倍
9	8月27日	グリーンペンコゼブ水和剤	400 倍

夏疫病防除回数 8回



優良事例2 撮影日9月6日

優良事例3

食用・加工用・澱粉専用種を栽培している

以前は澱粉専用種は栽培していなかったが、褐色火山性土の乾燥地で**そうか病が多発**した
pHなどの対策を試みたことがあるが他の作物への影響が大きかった

pHコントロールでそうか病を抑制することをあきらめた

そうか病が出る乾燥地には 澱粉専用種を作付することにした

澱粉専用種と食用・加工用の防除方法に差は無い

土づくり

輪作はきっちり5年輪作を行っている

小麦→野菜類→てん菜→豆類→馬鈴しょ

pHが重要であるため 30年前より化学性の改善のためによりりん 鶏糞の施用を続けている

最近はライムケーキを直播てん菜作付時の春に施用している 400～500kg

堆肥の施用はしていないが緑肥栽培による土づくりを心掛けている

小麦後作緑肥 えん麦野生種+辛神(カラシナ)を混播している

輪作体系にイモは欠かせない 輪作が何よりも大切

栽培方法

1. 栽植密度は畦幅72cm 株間は37cm(3750株)として芋を大きくすることが重要

2. 食用加工用は防除通路を作っているが澱粉専用種は防除通路作らず66cmの設定のまま防除している

3. 施肥はプロキヤスでBB肥料(BBS650UF)を100kg 豚糞70kgを4月中旬(人参の圃場を作る時)に施肥しておく

近隣生産者が小麦ドリルで均一に施肥して植付したイモの生育が揃っていたことから全層施肥を開始した

カッティングプラントには硫安を約20kg程度施用し作条施肥を行う

追肥はしない 多窒素は避け丈夫な茎に育てることを目指している

4. 丈夫な茎葉は、適正なpH 窒素は必要量を適正に 塩基バランスも考えている

5. pHが高くなっても気にしない そうか病は出るときは出ると開き直っている

6. 種芋はサンテナにあげかえ 寒冷紗をかけたハウスに置き凍結しないように管理する

目の動きにムラはあるが問題ない

7. 植付は4/25～5/5に行う

植付順番は直播てん菜→にんじん→イモの順番

8. 食用と同じように防除し茎葉を最後まで健全に生かすように心掛けている

茎葉を最後まで健全に保つことが栽培ポイント

特に**アブラムシは油断していると甚大な被害につながる**ので生育後半まで定期的に防除を行っている

収穫作業

1. チョッパー処理して収穫している

2. 石が無いので1人でも収穫可能

3. 9月上旬から3回に分けて集荷があるが9/20～23日には収穫を終了し小麦を播種する

3回目の集荷は2週間以上放置するが澱粉価が下がることは無い

4. 腐敗を回避するために山を極力小さくする

5. 食用・加工用は東洋7型で収穫するが澱粉専用種は専用ハーベスタで収穫している

6. 中古 澱粉ハーベスタは20～50万円であり高価なものではない

食用・加工用の野良イモ対策として澱粉ハーベスタを使用している。

新規生産者にはリース機があると取組しやすい。農協で所有できないか？

	2018	2019	2020	2021	2022	2023
年産	H30	R1	R2	R3	R4	R5
反収 (俵/10a)	70.4俵	75.5俵	75.5俵	82.4俵	65.1俵	80.1俵
ライマン価	21.2%	19.9%	20.6%	19.3%	21.4%	19.6%
後作小麦率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

優良事例3 R5年(2023年)栽培概要

1. 植付日 4月29日
 2. 施肥

施肥時期	銘柄	施肥量	N	P	K	Mg
4月29日	全層 BBS667	55.3 ^g	10	21	6	4
	全層 BBS859UF	27.6 ^g				
	全層 ヘレット	70.0 ^g				
	作条 硫安	20.0 ^g				

3. 栽植密度(計測値) 3,735 株/10a
 畦幅cm 株間cm
 69 × 38.8

4. 7月下旬生育調査
 草丈 69.5 cm
 葉色値SPAD 37
 夏疫病指数 0 0:発生なし 1:発病がある 2:株の1/2が発病 3:株の1/2以上発病 4:枯死
 倒伏指数 1 0:倒伏なし 1:倒伏がある 2:圃場の1/2が倒伏 3:株の1/2以上倒伏 4:全面倒伏
 圃場の特徴 若干倒伏あり

5. 防除

防除回数	防除日	資材名	倍率
1	5月22日	モーティブ乳剤	400 ml
2	6月23日	グリーンベンコゼブ水和剤	500 倍
		スターナ水和剤	1,000 倍
3	6月30日	ビレスコ顆粒水和剤	10,000 倍
		グリーンベンコゼブ水和剤	500 倍
4	7月5日	フロンサイドSC	1,500 倍
		カスミンボルドー	800 倍
5	7月11日	コルト顆粒水和剤	6,000 倍
		グリーンベンコゼブ水和剤	500 倍
		マスタピース水和剤	2,000 倍
6	7月19日	グリーンベンコゼブ水和剤	500 倍
		銅ストマイ水和剤	600 倍
7	7月27日	ウララDF	4,000 倍
		グリーンベンコゼブ水和剤	500 倍
		スターナ水和剤	1,000 倍

防除回数	防除日	資材名	倍率
8	8月3日	ビレスコ顆粒水和剤	10,000 倍
		グリーンベンコゼブ水和剤	500 倍
		マスタピース水和剤	2,000 倍
9	8月10日	ダコニールエース	1,000 倍
10	8月15日	コルト顆粒水和剤	6,000 倍
		グリーンベンコゼブ水和剤	500 倍
11	8月23日	グリーンベンコゼブ水和剤	500 倍
		銅ストマイ水和剤	600 倍
		モスピランSL液剤	4,000 倍
12	8月29日	クプロシールド	1,000 倍

夏疫病防除回数 9回



優良事例3 撮影日9月6日

優良事例4

先代より澱粉専用種の栽培を続けている

石は無いが、粘土の強い圃場が多い

ハーベスタを借りて加工用を作ったことがあるがやめた

澱粉専用種はそうか病の心配がなく土壌改良や堆肥の施用に気を使わなくてよいの

土づくり

堆肥の施用 小麦収穫後の畑に施用している

堆肥は購入や麦稈との交換

小麦1年目の収穫後圃場へは1年寝かした堆肥を1t施用し連作する

小麦2年目の収穫後圃場へは緑肥鋤き込み時に生堆肥を2t施用する

小麦2年目の圃場へは緑肥として野生種えん麦を栽培している

pH改善は、直播てん菜作付時と小麦作付時に苦土タンカルを散布し、6.0以上を維持

苦土タンカル施用量は、直播てん菜の時は100kg/10a 小麦へは50kg/10a

土壌分析値は基準値以上となっている

前回の肥料高騰時に減肥をしたら大きく減収したのでその時より減肥はしない

輪作体系 小麦→小麦→てん菜→豆類→馬鈴しょの5年を基本としているが、

小麦が「ゆめちから」であり早期播種が必須のため間に合わない

栽培方法

1. 畦幅66cm×株間38cm 約4000株

2. 浴光催芽はしていない

サンテナに種芋をあげ、パレットに4段済みにして凍結しないように管理する

3. 培土は地割れしたら本培土して、土壌処理除草剤モーティブを散布している

4. 施肥は植付時にBBS667を90～100kg/10a施用し培土前にロング肥料をプロキヤ

ロング肥料:フレッシュロング825 N18% P2% K5% Mg1% 20kg/10a

茎が健全に保てるようになった

5. 6月の防除時は尿素を1600ℓに2kg程度投入し茎葉を旺盛に育てる 開花が終

6. 小麦収穫後からマンゼブ剤を使用し茎葉の確保に努める

7. R2年に培土刃を大きくし、収量が多くなった。

収穫作業

1. 収穫時はチョッパーを使い茎葉処理を行う。

茎葉が邪魔にならない年は収量が少ない

2. 機上選別は1名 腐れ 土塊の除去

3. 澱粉の山は低くし腐敗を防ぐ

ハーベスタなど初期投資について

サンエイの中古ハーベスタを100万円で購入

コンベアの消耗による修理費は高額だが修理しながら使用できる

	2018	2019	2020	2021	2022	2023
年産	H30	R1	R2	R3	R4	R5
反収 (俵/10a)	67.0俵	76.7俵	73.8俵	83.6俵	59.9俵	87.6俵
ライマン価	19.8%	18.4%	19.6%	19.2%	20.9%	18.9%
後作小麦率	100.0%	64.9%	100.0%	100.0%	72.6%	69.7%

優良事例4 R5年(2023年)栽培概要

1. 植付日 4月29日

2. 施肥

施肥時期	銘柄	施肥量	N	P	K	Mg
5月2日	BBS667	80.0 ^{kg}	7.2	24.8	6.6	3.2
5月14日	フレッシュロン ^g 825	20.0 ^{kg}				

3. 栽植密度(計測値) 4,248 株/10a

畦幅cm	株間cm
66.5	35.4

4. 7月下旬生育調査

草丈 71 cm

葉色値SPAD 38.7

夏疫病指数 0 0:発生なし 1:発病がある 2:株の1/2が発病 3:株の1/2以上発病 4:枯死

倒伏指数 0 0:倒伏なし 1:倒伏がある 2:圃場の1/2が倒伏 3:株の1/2以上倒伏 4:全面倒伏

圃場の特徴 綺麗 ホリウムあり

5. 防除

防除回数	防除日	資材名	倍率
1	5月22日	モーティブ乳剤	400 ml
2	6月16日	グリーンペンコゼブ水和剤	400 倍
3	6月25日	グリーンペンコゼブ水和剤	400 倍
4	7月4日	ピレスコ顆粒水和剤 ケプロシールド	10,000 倍 1,000 倍
5	7月14日	グリーンペンコゼブ水和剤	400 倍
6	7月22日	カスミンボルドー	800 倍
		フロンサイドSC	1,500 倍
		クマイコルト顆粒水和剤	4,000 倍
7	7月30日	カビナイスPZ水和剤	600 倍
		スターナ水和剤	1,000 倍
8	8月10日	グリーンペンコゼブ水和剤	400 倍
		銅ストマイ水和剤	600 倍
		ウララDF	1,000 倍
9	8月18日	グリーンペンコゼブ水和剤	400 倍
10	8月23日	グリーンペンコゼブ水和剤	400 倍
11	8月31日	グリーンペンコゼブ水和剤	400 倍

夏疫病防除回数 9回



優良事例4 撮影日9月6日

	補付日	本地主	設定密度		調査密度		栽植密度	pH	7月下旬草丈	7月下旬葉色値	夏疫病 防除回数	7月下旬			9月上旬 圃場の特徴	肥料名・施肥量	収穫開始 履歴上	N	P	K	Mg	反収	澱粉収量	ライオン値	10a粗収益 (試算値)	
			畦幅	株間	畦幅	株間						夏疫病指数	倒伏指数	圃場の特徴												
N01	5月4日	5月27日	66	36	66	38.6	3,925	6.0	71	40.4	8	0	0	とても綺麗	BB859UF 75kg	9月9日	6	19	7	5	100	1,183	19.7%	148,841		
N02	4月28日	5月27日	66	34・37	66	36	4,163	5.6	63	40	10	0	0	とても綺麗	BB859UF 100kg	9月9日	8	25	9	6	92	1,113	20.2%	139,803		
N03	4月22日	5月26日	66	40	65	40	3,865	5.5	68	37	6	1	0	小豆側夏疫枯れている	BBS667 85kg	9月9日	5	22	6	3	90	1,087	20.1%	136,589		
N04	5月8日	5月26日	72	40	70	38	3,720	5.4	70	42	4	0	0	若干夏疫はあるが茎は青く綺麗	BB859UF 95kg	9月8日	8	24	9	6	86	1,010	19.6%	127,638		
N05	5月2日	5月19日	66	37	67	35	4,248	5.8	71	39	9	0	0	綺麗 緑が少しあり	BBS667 80kg フレックス825 20kg	9月8日	7	25	7	3	88	993	18.9%	125,709		
N06	5月2日	5月14日	66	35	66	37	4,117	5.7	60	39	7	0	0	綺麗 小ぶり	BB859UF 80kg	9月3日	6	20	7	5	83	996	20.0%	125,473		
N07	4月24日	5月4日	72	33	72	34	4,134	5.4	57	37	7	1	0	収穫している	BB859UF 95kg	9月3日	8	24	9	6	85	966	19.0%	121,968		
N08	4月29日	5月19日	72	37	69	39	3,735	6.3	70	37	9	0	1		全層 BBS667 55.3kg 全層 BB859UF 27.6kg 全層 ベレック 70kg 作業 確安20kg 4/29	9月9日	10	21	6	4	80	942	19.6%	118,529		
N09	5月1日	6月6日	66	36	68	34	4,325	5.7	53	34	6	0	0	黄化	BB859UF 88kg	9月4日	7	22	8	5	79	942	19.9%	118,149		
N010	4月29日		66	40	70	43	3,307	6.2	90	39	5	1	2	茎太く 緑が少しあり	9/4 20aぐらい収穫済み 夏疫枯れている	BB859UF 70kg	9月4日	6	18	6	4	82	924	18.9%	116,657	
N011	4月25日	5月10日	75	39	73	35	3,936	6.6	96	40	9	1	2	夏疫 枯れている	BBS667 100kg 確安20kg 6/26	9月22日	10	26	7	4	81	919	18.9%	116,291		
N012	5月1日	5月13日	72	33	72	35	3,946	5.7	95	35	7	2	3	軟腐病 多	キレイ	S880 80kg	9月7日	6	14	8	3	84	905	18.0%	114,183	
N013	5月1日	5月10日	72	45	73	40	3,442	5.4	78	42	10	1	0	緑が少し	50%収穫終了	BB859UF 90kg	9月5日	7	23	8	5	74	910	20.5%	113,888	
N014	4月28日	6月9日	69	33	65	39	3,965	6.0	75	38	9	1	1	綺麗	2次成長、夏疫あり 9/7収穫予定20aぐらい	BB859UF 90kg 追肥 確安10kg	9月8日	9	23	8	5	74	873	19.8%	109,754	
N015	5月2日	5月17日	72	33	71	35	4,024	5.7	65	38	3	1	0.5	キレイ		BBS667 70kg	9月4日	4	18	5	3	69	851	20.5%	107,421	
N016	5月1日		72	36	69	41	3,518	5.8	89	45	4	1	1	全体的に枯れている		BB859UF 80kg	9月4日	6	20	7	5	73	845	19.3%	106,686	
N017	5月2日	5月20日	72	21	73	36	3,763	5.6	75	41	5	0	1			BB859UF 90kg 確安 10kg 8/5	9月1日	9	23	8	5	77	834	18.0%	105,151	
N018	5月9日	5月26日	72	34	72	39	3,580	5.3	63	34	6	2	1	草 葉青 20センチ弱	枯れている 草茎 青いのは草	BB859UF 100kg	9月7日	8	25	9	6	69	833	20.0%	106,131	
N019	4月23日	5月2日	66	36	65	42	3,663	6.2	73	41	6	1.5	2	ほとんど枯れている		BBS807 100kg 確安30kg 7/5	9月8日	14	20	7	3	74	828	18.6%	105,003	
N020	4月28日	5月3日	72	30	71	33	4,320	5.8	81	37	7	2	2	夏疫 枯れている		中国化成S121 20	9月11日	2	4	2		73	819	18.7%	103,561	
N021	5月6日	5月15日	72	30	72	46	3,046	5.8	92	41	6	1	1	緑が少し多	夏疫 枯れている デコッパ―処理30%収穫開始	BBS859 80kg	9月4日	6	20	7	5	75	812	18.0%	102,582	
N022	4月29日		72	34	70	39	3,663	6.3	100	39	8	1	2	全体的に枯れている		BB859UF 100kg 尿素 10kg 6/29	9月10日	13	25	9	6	71	813	19.2%	102,111	
N023	5月2日	5月18日	72	37	69	41	3,518	6.3	81	39	6	0	0	一部夏疫 枯れている		BB859UF 90kg	9月6日	7	23	8	5	70	773	18.4%	97,629	
N024	4月29日		72	30	71	32	4,347		77	35	5	1	0.5	濃い	草多い 草枯れている		BB859UF 80kg	9月14日	6	20	7	5	65	737	18.8%	92,784
N025	5月13日	5月31日	72	33	72	34	4,085	5.5	71	35	9	0	0	コブが少し少		BB859UF 90kg	9月10日	7	23	8	5	56	682	20.2%	85,982	
N026			72	33	71	37	3,848	5.5	60	47		0	0	草茎 紫色濃い		BB859UF 100kg		8	25	9	6	56	651	19.3%	82,296	